



三菱重工 屋内設置形
コンデンシングユニット
(空冷式)

HRS22A1-L

仕 様 書

添付図面

1. 外形図

コンプレッサユニット.....LRG000Z001

コンデンサユニット.....LRG000Z007

2. 冷媒系統図

コンプレッサユニット.....LRG000Z014

コンデンサユニット.....LRG000Z020

3. 電気回路図

コンプレッサユニット.....LRG000Z025

コンデンサユニット.....LRG000Z030

日付 2016年 4月 28日

認可	担当
笠原	堀内

△ PL-C 0117 16.04.27 笠原

三菱重工業株式会社

仕様書番号	訂 符	葉別	配布先	葉別サイズ
ESP-PL-7009	△ A	1 / 5	XX	A4=1-5



要目表

(50/60Hz)

項目(単位)		型 式	HRS22A1-L
使 用 冷 媒	—	—	R404A
蒸 発 温 度 使 用 範 囲	℃	—	-45~-5
電 源	—	—	AC3φ 200V 50/60Hz
性 能	コンデンサ周囲温度	℃	32
	蒸 発 温 度	℃	-10
	吸 入 ガ ス 温 度	℃	18
	冷 凍 能 力	kW	6.30/7.50
電 気 特 性	消 費 電 力	kW	3.1/3.7
	運 転 電 流	A	11.8/12.6
	力 率	%	76/85
	始 動 電 流	A	104/94
法 定 冷 凍 能 力	トン	—	1.18/1.42
高 圧 ガ ス 保 安 法 区 分	—	—	届出不要
コ ン プ レ ッ サ ユ ニ ツ ト	型 式	—	HRS22A1
	外 形	幅	mm 994
	奥 行	mm	560
		高さ	mm 335
	圧 縮 機	型 式	FL300DL-56A3
	定 格 出 力	kW	2.2
		吐出量	m ³ /h 9.68/11.6
	冷 却 方 式	—	冷媒液冷却方式
	冷 機 種 類	—	ダフニーハーメチックオイル FV32D
	油 封 入 量	ℓ	1.2
	運 転 調 整 装 置	運 転 ス イ ッ チ	— 運転/停止
	保 護 装 置	高 圧 圧 力 遮 断 装 置	MPa 3.0 OFF (手動復帰)
		電 流 セ ン サ (圧 縮 機 用)	A 20
		配 線 用 遮 断 器 (圧 縮 機 用)	A 20
		吐 出 ガ ス 過 熱 防 止 サ ー ミ ス タ	℃ 110 (自動復帰)
	ヒューズ	操 作 回 路 用	A 5
		コンデンサファンモータ用	A 5
	そ の 他	—	逆相防止器
	冷 媒 配 管	ガ ス 入 口	mm φ19.05 (ロー付接続)
		吐 出 ガ ス 出 口	mm φ12.7 (フレア接続)
		凝 縮 液 入 口	mm φ12.7 (フレア接続)
		液 出 口	mm φ12.7 (フレア接続)
	質 量	製 品 質 量	kg 69
		梱 包 質 量	kg 87
	騒 音 値	dB	54/57
	内 蔵 品	—	高圧連成計, ドライヤ, サイトグラス
コ ン デ ン サ ユ ニ ツ ト	型 式	—	HRC22A1
	電 源	—	AC1φ 200V 50/60Hz
	外 形	外装(マンセル記号)	— ナチュラルグレー(1.0Y 8.5/0.5)
		幅	mm 850
	奥 行	mm	315
		高さ	mm 800
	凝 縮 器	型 式	多通路クロスフィン式
	送 風 機	型 式 × 台 数	— φ465プロペラファン×1
		風 量 (最 大)	m ³ /min 56.3
	モータ	定 格 出 力 × 台 数	W 95×1
		受 液 器 内 容 積	ℓ 7.5
	制 御 装 置	凝 縮 圧 力 制 御	— ファンスピード制御
	ヒューズ	A	5
		冷 配 ガ ス 入 口	mm φ12.7 (ロー付接続)
	媒 管	液 出 口	mm φ12.7 (ロー付接続)
	質 量	製 品 質 量	kg 41
		梱 包 質 量	kg 46
	騒 音 値	dB	45/46

注(1) 騒音値は、反響の少ない無響室などの部屋で、運転条件：コンデンサ周囲温度32℃、蒸発温度-10℃、吸入ガス温度18℃、測定位置：製品正面1m、高さ1mにおける値(Aスケール)を示します。実際の据付状態では、周囲の反響などの影響を受け、表示値より大きくなりますので、据付に当っては、据付場所の環境には十分ご注意ください。



使用範囲

蒸発温度	-45~-5℃	
吸入圧力	0~0.42MPa	
吸入ガス温度	18℃以下 ※1	
吐出ガス温度	120℃以下	
吐出ガス過熱度	15℃以上	
周囲温度	-20~40℃	
電源電圧	200V±10%以内	
最低始動電圧	170V以上	
電圧不平衡率	2%以内	
配管長 (相当長)	吸入・液配管	100m以下 ※2
	コンデンサ	45m以下
高低差	コンデンサ上	15m以下
	コンデンサ下	3m以下

- 記事1. ※1印 吸入ガス過熱度は通常5~40℃の範囲に入るように調整して下さい。
2. ※2印 配管長により冷凍能力補正が必要です。
又、配管サイズのアップ及び冷凍機油の追加等が必要となる場合があります。
3. 配管長のコンデンサは、コンプレッサユニットとコンデンサユニット間の配管長を示します。

使用上の注意事項

1. ショーケース、ユニットクーラーは、R404A用に設計・製造されたユニットを選定願います。
従来のR22適用製品とR404A適用製品は互換性はありません。
R22適用製品をそのまま使用されますと、スラッジ生成による不冷、圧縮機トラブルとなる恐れがあります。
膨張弁、その他サイクル部品についても同様にR404A専用品を選定願います。
2. 直接冷媒に触れる計測器、工具は全てR404A専用としてください。ただし、R407Cとエーテル油（FVB68D出光興産製）の組合せで使用している工具については共用が可能です。
3. 吸入配管には十分な断熱を施してください。保冷材の厚さは冷蔵用で50mm、冷凍用で75mmが概略の目安となりますが、ユニットの寿命と経済運転のためにも必ず適正な保冷を行ってください。
4. ユニットの運転、停止の繰返しは1時間に6回以内、運転時間は5分間以上、停止時間は5分以上になるよう各機器を調整してください。
5. ユニットの周囲は、規定のスペースを確保してください。
6. ユニットから発生する騒音が近隣に迷惑がかからない場所に据え付けてください。
7. 次のような場所には設置しないでください。ユニットが故障する原因となります。
 - ・油（機械油を含む）の飛沫、蒸気の多い場所
 - ・温泉地など硫化ガスの多い場所
 - ・可燃性ガスの発生、流入などの恐れがある場所
 - ・海岸地帯などの塩分の多い場所
 - ・酸性またはアルカリ性の雰囲気のある場所
 - ・排熱ができない場所（設置スペースが確保できない場所など）
 - ・雨風が侵入するような場所（コンプレッサユニット）
8. 電磁波を発生する機器の付近に据え付ける場合は、電磁波放射器の発信面が直接ユニット本体の電気品箱に対向しない位置に据え付けてください。
9. ノイズの空中伝搬の影響を避けるため、ラジオなどの受信機よりユニット本体および電源線を3m以上離してください。
10. この製品は国内向け一般冷凍・冷蔵用のコンデンスユニットです。
高度な品質管理を必要とする血清、ワクチン、医療用などの貯蔵、および動植物、精密機械、美術品、学術資料の保管などの特殊用途には使用しないでください。
11. 貯蔵物の解凍事故などへの拡大につながらないよう警報装置の設置および温度管理システムの確立をお願いします。



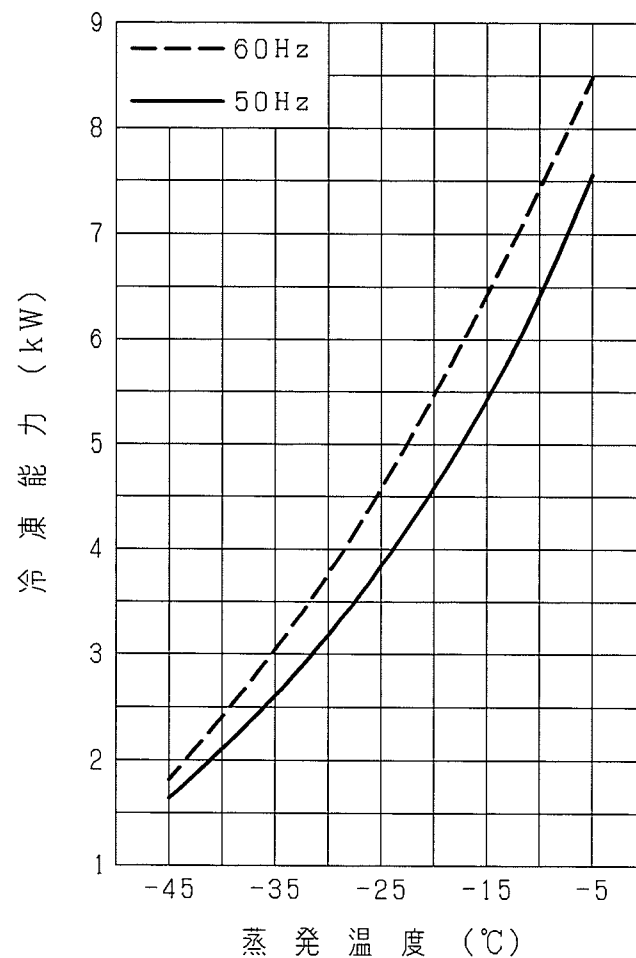
冷凍能力一覧表

単位：kW

型 式		HRS22A1-L	
外気温度		32℃	
冷 媒		R404A	
周 波 数		50Hz	60Hz
蒸 発 温 度 (℃)	-45	1.64	1.82
	-40	2.00	2.36
	-35	2.56	3.02
	-30	3.18	3.76
	-25	3.82	4.52
	-20	4.58	5.48
	-17	5.10	6.02
	-15	5.42	6.42
	-10	6.30	7.50
	- 5	7.56	8.48

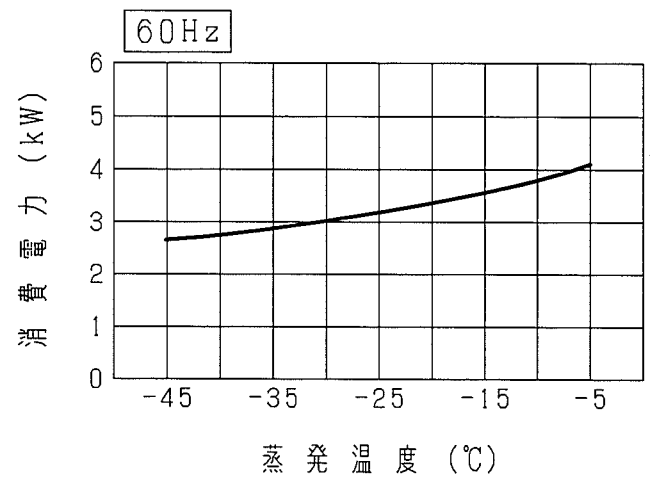
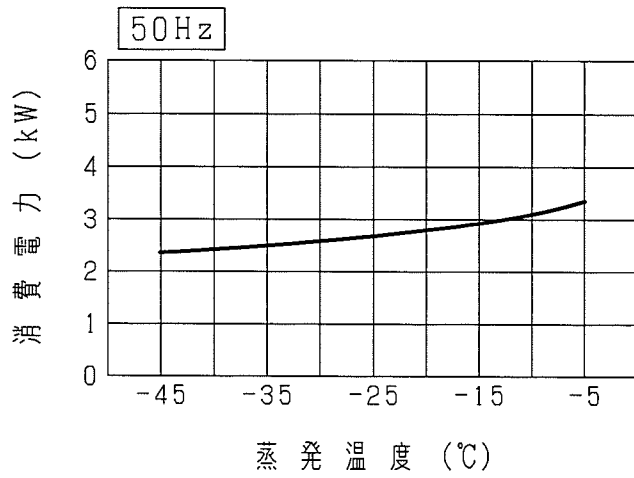
注。(1) 蒸発温度とは吸入圧力の飽和温度のことで、吸入ガス温度18℃時の値を示します。

冷凍能力曲線





消費電力曲線



運転電流曲線

